

Express5800/MW400g (N8100-1643) パッチ適用手順書

本書は、Express5800/MW400g(N8100-1643)の
運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。
(Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご参照下さい)

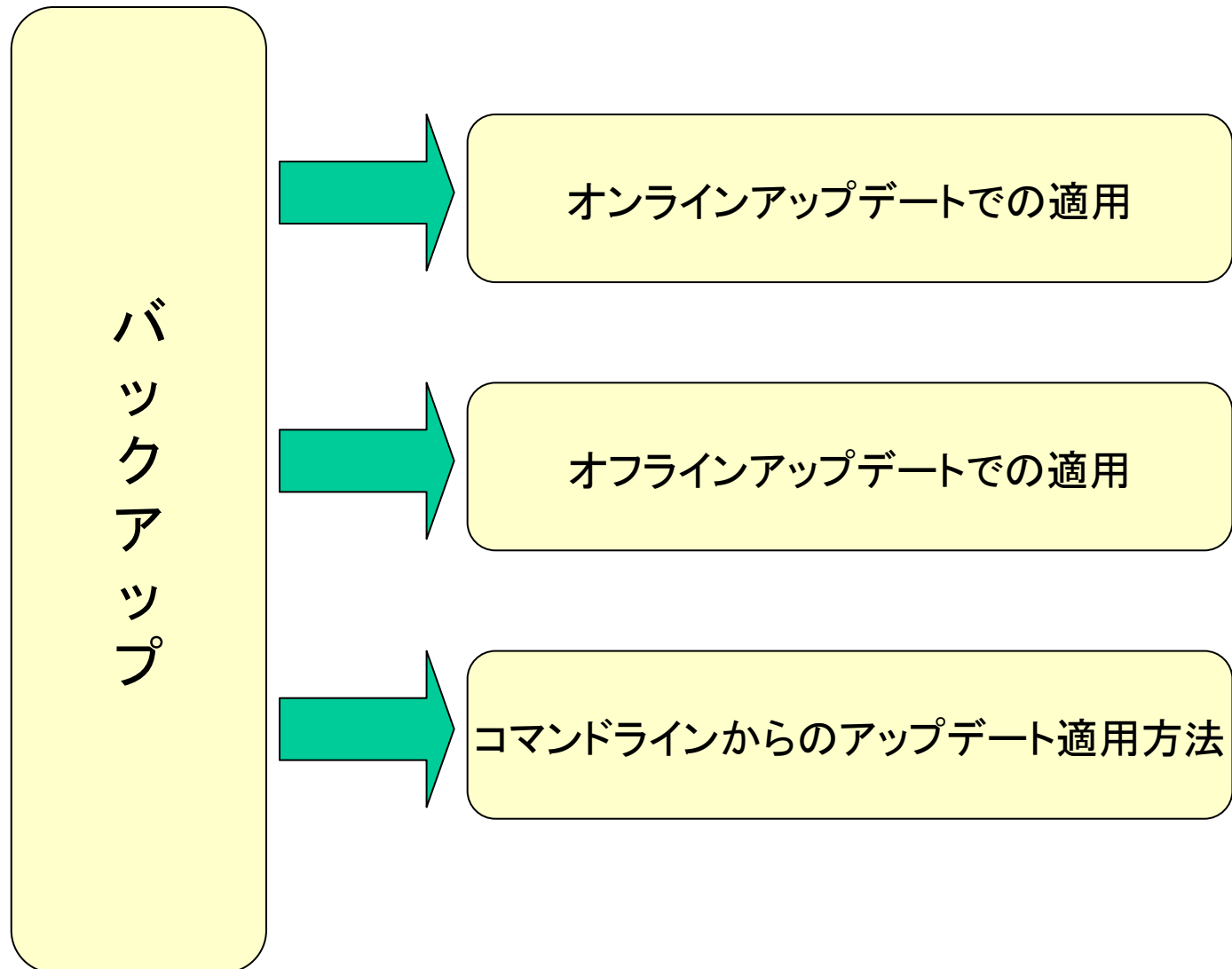
2010/7/28 第1版

NEC

目次

・パッチ適用の基本手順 3
・アップデートモジュール適用時の注意・制限事項 4
・オンラインアップデートでの適用 7
・オフラインアップデートでの適用 12
・コマンドラインからのアップデート適用 17
・RPMパッケージの適用方法 21
・参考資料	
バックアップ手順 27
バックアップ例1 : Windowsマシンへの定期バックアップ 28
バックアップ例2 : Windowsマシンへの即時バックアップ 30
バックアップ例3 : テープデバイスへの定期バックアップ 32
バックアップ例4 : テープデバイスへの即時バックアップ 34
バックアップの補足事項 37

パッチ適用の基本手順



アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(1/3)

(1)共通の注意、制限事項

- ・アップデートモジュールは、必ず公開された順番で適用して下さい。
- ・すべてのアップデートモジュールを適用した後に再起動が必要になります。

(2)ロードバランスクラスタ構成での注意・制限事項

- ・マスタ、スレーブの順で、すべての本装置へ適用して下さい。
- ・マスタへの適用前に、マスタのManagement Consoleに接続し、システム>ロードバランス 画面にて、ミラーリング間隔に "NO"を設定して下さい。
- ・適用前に、サービス画面の[停止]ボタンにて、各種サービスを停止して下さい。
※TELNET、FTP、サービス監視(chksvc)サービス以外のサービスについては、再起動により、元の起動状態に戻ります。
- ・適用後に、マスタから先にシステムの再起動を行って下さい。
スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。
- ・すべての本装置へアップデートモジュールを適用した後に、システム>ロードバランス画面にて、ミラーリング間隔を設定して下さい。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(2/3)

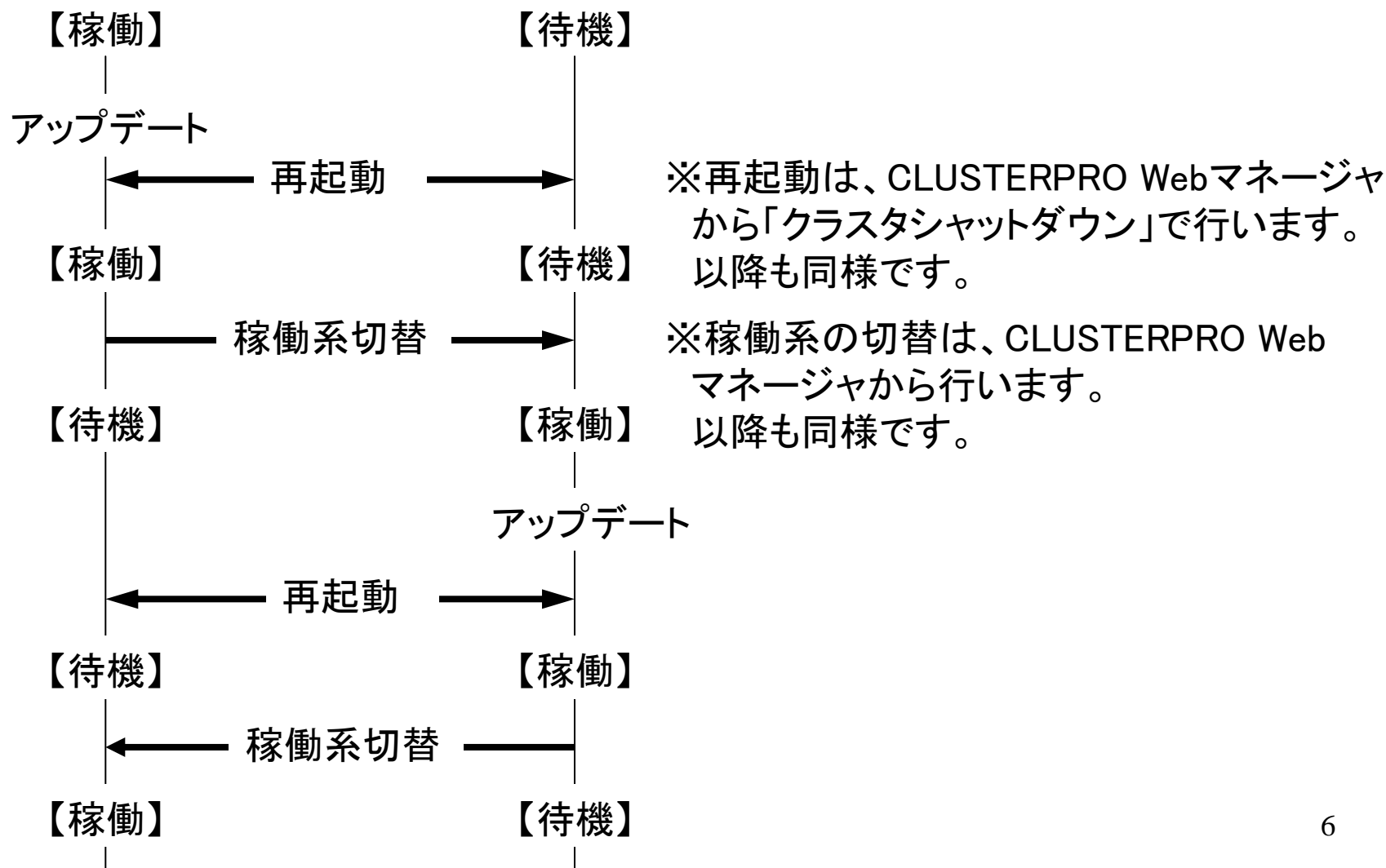
(3)フェイルオーバークラスタ構成での注意・制限事項

- ・アップデートモジュールは、稼働系の状態でのみ適用可能です。待機系サーバへ適用する場合は、一旦、系の切り替えを行い、稼働系にした後、適用を行って下さい。
- ・オンラインアップデートで適用する場合は、適用後に、稼働系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
コマンドで適用する場合は、すべてのアップデートモジュールを適用した後に、稼働系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
どちらの場合も、CLUSTERPRO Webマネージャから再起動を行って下さい。
なお、稼働系サーバを再起動する際、同時に待機系サーバも再起動して下さい。

フェイルオーバークラスタ構成時の適用イメージは、次ページのとおりです。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(3/3)

※フェイルオーバークラスタ構成時の適用イメージ



オンラインアップデートでの適用(1/5)

オンラインアップデートは、本装置に必要なアップデートをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。

Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[オンラインアップデート]ボタンをクリックして下さい。



オンラインアップデートでの適用(2/5)

初めてオンラインアップデートを利用する場合、[オプション設定]欄の[認証設定]項目 [ユーザ認証を行う]をチェックし、基本サポートサービスのサポート契約の認証情報の入力後、[設定]ボタンをクリックして下さい。次に、[最新情報に更新]ボタンをクリックして下さい。

なお、公開アップデートの内、セキュリティ、および、不具合修正に関するものは、サポートのご契約がないお客様も適用が可能です。[最新情報に更新]ボタンをクリックして下さい。



[最新情報の更新]ボタンを押し
最新のアップデート情報に更新を
行って下さい。

基本サポート契約がある場合は、
認証設定を行って下さい。

オンラインアップデートでの適用(3/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュール情報から適用可能なアップデートモジュールの一覧を表示します。未適用のモジュールには「適用」欄に「未」と表示されます。

始めに、アップデートのモジュールの取得を行って下さい。取得したいバージョンの[取得]欄のチェックボックスをチェックし、[取得]ボタンをクリックして下さい。チェックしたアップデートバージョンを含み、適用に必要なアップデートバージョンはすべて自動的に取得します。

取得が完了すると[取得]欄が「済」と表示されます。

最終更新日付: 2010/07/05

最新情報を更新

■ アップデートモジュール一覧

概要

パッケージ名

cyrus-sasl-md5-2.1.22-5.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>	取得	適用
myrmel-6.0.0-1.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
httpd-2.2.3-43.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
httpd-manual-2.2.3-43.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
mod_ssl-2.2.3-43.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
openssl-0.9.8e-12.el5_4.6.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
procps-3.2.7-16.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
wbmchttpd-2.2.3-43.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
wbmchttpd-mod_ssl-2.2.3-43.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
webmail-httpd-2.2.3-43.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
sendmail-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input checked="" type="checkbox"/>	済	未
sendmail-cf-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
webmail-httpd-mod_ssl-2.2.3-43.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
sendmail-devel-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
sendmail-doc-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
samba-3.0.33-3.29.el5_5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
samba-client-3.0.33-3.29.el5_5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
samba-common-3.0.33-3.29.el5_5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
sudo-1.7.2p1-7.el5_5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
wbmcap-10.1-3.noarch.rpm	<input type="checkbox"/>		

取得したいモジュールをチェック後、
[取得]ボタンをクリック

モジュール Rel 1.0 をリリースします。 [\[詳細情報\]](#)

オンラインアップデートでの適用(4/5)

次に、アップデートを適用するバージョンの[適用]欄のチェックボックスをチェックし、[適用]ボタンをクリックして下さい。チェックしたアップデートバージョンを含み、適用に必要なアップデートバージョンはすべて自動的に適用します。

最終更新日付: 2010/07/05

最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧

公開日	Rel.	概要	パッケージ名		済	適用
2010/07/06	1.0	Express5800/MW400g アップデートモジュール Rel.1.0 をリリースします。 [詳細情報]	cyrus-sasl-md5-2.1.22-5.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>	済	<input checked="" type="checkbox"/>
			mwmcld-0.2-10.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			httpd-2.2.3-43.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			httpd-manual-2.2.3-43.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			mod_ssl-2.2.3-43.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			openssl-0.9.8e-12.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			procps-3.2.7-1.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			wbmchttpd-2.2.3-43.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			wbmchttpd-mod_ssl-2.2.3-43.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			wsomail-httpd-2.2.3-43.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			sendmail-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			sendmail-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			sendmail-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			sendmail-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			sendmail-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			samba-3.0.33-3.29.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			samba-client-3.0.33-3.29.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			samba-common-3.0.33-3.29.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			sudo-1.7.2p1-7.el5.i386.rpm	<input type="checkbox"/>		
			wbmcap-10.1-3.noarch.rpm	<input type="checkbox"/>		

取得したいモジュールをチェック後、
適用をクリック

オンラインアップデートでの適用(5/5)

アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。
Management Consoleからシステムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先にシステムを再起動して下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。

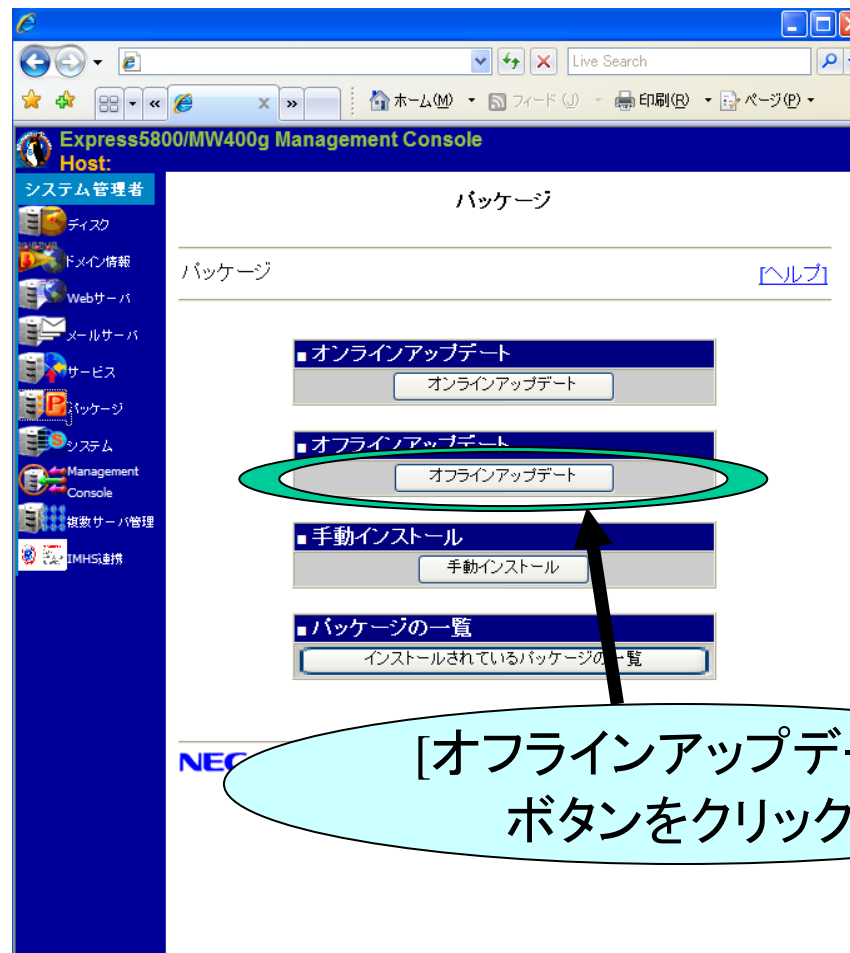
フェイルオーバークラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャの「クラスタシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。

「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの
「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

オフラインアップデートでの適用(1/5)

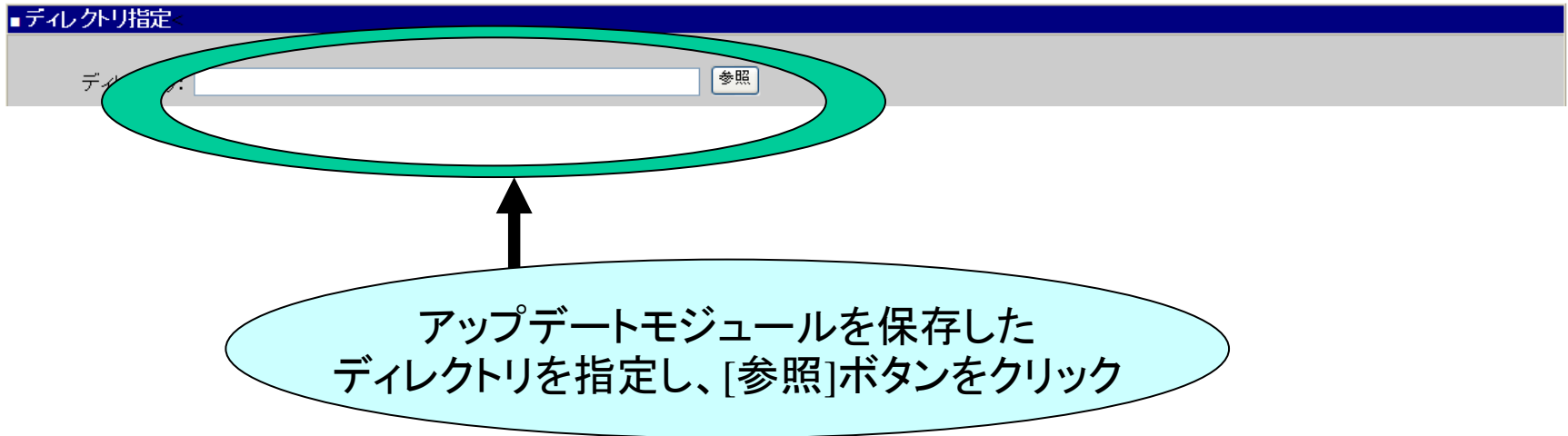
オフラインアップデートは、予め取得しておいたアップデートモジュールを、Management Consoleより適用します。

Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[オフラインアップデート]ボタンをクリックして下さい。



オフラインアップデートでの適用(2/5)

[■ディレクトリ指定]欄の[ディレクトリ]に、アップデートモジュールを保存しているディレクトリを指定し、[参照]ボタンをクリックして下さい。
アップデートモジュールは、アップデート公開サイトからダウンロードした‘tgz’形式の状態で保存しておいて下さい。



※ アップデートモジュールの適用は、必ず公開されたものすべてを古い順番で適用して下さい。

オフラインアップデートでの適用(3/5)

指定したディレクトリに含まれるアップデートモジュールの一覧が表示されます。アップデートを行うモジュールの[格納]欄のチェックボックスをチェックし、[適用]ボタンをクリックして下さい。

ディレクトリ:

>指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	
2010/07/06	1.0	Express5800/MW400g アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。	sudo-1.7.2p1-7.el5_5.i386 webmail-httpd-2.2.3-43.i386 openssl-0.9.8e-12.el5_4.6.i386 sendmail-doc-8.13.8-8_MW2.i386 samba-3.0.33-3.29.el5_5.i386 httpd-2.2.3-43.el5.i386 samba-client-3.0.33-3.29.el5_5.i386 wbmchttpd-mod_ssl-2.2.3-43.i386 cyrus-sasl-md5-2.1.22-5.el5.i386 sendmail-cf-8.13.8-8_MW2.i386 sendmail-cf-el-8.13.8-8_MW2.i386 mod_ssl-2.2.3-43.el5.i386 wbmchap-10.1-3.noarch httpd-manual-2.2.3-43.el5.i386 config-mw-1.0-0.1.el5g.i386 mwmctl-0.2-10.i386 webmail-httpd-mod_ssl-2.2.3-43.i386 procps-3.2.7-16.el5.i386 sendmail-8.13.8-8_MW2.i386 wbmchttpd-2.2.3-43.i386 ...-common-3.0.33-3.29.el5_5.i386	<input checked="" type="checkbox"/>

適用

格納したいモジュールをチェック後、

格納したいモジュールをチェック後、
[適用]ボタンをクリック

オフラインアップデートでの適用(4/5)

格納後、[■アップデートモジュール一覧]画面に、格納したアップデートモジュールが表示されます。適用を行うアップデートモジュールの[適用]欄のチェックボックスをチェックし、[適用]ボタンをクリックして下さい。

■ アップデートモジュール一覧				
公開日	Rel.	概要	パッケージ名	取得 適用
2010/07/06	1.0	Express5800/MW400g アップデートモジュール Rel 1.0 をリリースします。 [詳細情報]	cyrus-sasl-md5-2.1.22-5.el5.i386.rpm	済 <input checked="" type="checkbox"/>
			mwmcctl-0.2-10.i386.rpm	
			httpd-2.2.3-43.el5.i386.rpm	
			httpd-manual-2.2.3-43.el5.i386.rpm	
			mod_ssl-2.2.3-43.el5.i386.rpm	
			openssl-0.9.8e-12.el5_4.6.i386.rpm	
			procps-3.2.7-16.el5.i386.rpm	
			wbmchttpd-2.2.3-43.i386.rpm	
			wbmchttpd-mod_ssl-2.2.3-43.i386.rpm	
			webmail-httpd-2.2.3-43.i386.rpm	
			sendmail-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	
			sendmail-cf-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	
			webmail-httpd-mod_ssl-2.2.3-43.i386.rpm	
			sendmail-devel-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	
			sendmail-doc-8.13.8-8_MW2.i386.rpm	
			samba-3.0.33-3.29.el5_5.i386.rpm	
			samba-client-3.0.33-3.29.el5_5.i386.rpm	
			samba-common-3.0.33-3.29.el5_5.i386.rpm	
			sudo-1.7.2p1-7.el5_5.i386.rpm	
			wbmcap-10.1-3.noarch.rpm	

適用したいモジュールをチェック後、
[適用]ボタンをクリック

オフラインアップデートでの適用(5/5)

アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。
Management Consoleからシステムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先にシステムを再起動して下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行ってください。

フェイルオーバークラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャの「クラスタシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。

「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの
「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(1/4)

アップデートをManagementConsoleから実施せず、コマンドラインから行います。

適用するアップデートモジュールを予め本装置に保存し、コマンドを実行して適用します。

※本手順では、ダウンロードしたアップデートモジュールは、本装置の /tmp ディレクトリにあるものとします。/tmp 以外にアップデートモジュールを保存した場合は、保存したディレクトリに読み替えて下さい。

- (1) 本装置に telnet (login 名 : admin) でログインして下さい。
フェイルオーバークラスタ構成の場合は、稼働系サーバに ログインして下さい。
ログイン後、su コマンドで root 権限を取得して下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(2/4)

- (2) /tmpディレクトリに移動し、以下のコマンドでアップデートモジュールを展開して下さい。

```
# cd /tmp/  
# tar -xzf アップデートモジュールファイル名
```

- (3) /tmpディレクトリ配下に以下のディレクトリが作成されます。

N8100-1643_UpdateModule-[アップデートバージョン番号]

- (3) ディレクトリを移動します。

```
# cd /tmp/N8100-1643_UpdateModule-[アップデートバージョン番号]/command
```

- (4) サービスの停止

Management Console の[サービス]画面から telnet 以外のすべてのサービスを停止して下さい。
ただし、フェイルオーバークラスタ構成の場合は、クラスタプロ(CLUSTERPRO X)サービスは停止しないで下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(3/4)

(5) アップデートモジュールの適用

各ディレクトリ配下にて以下のコマンドを実行します。

```
# perl MailWebServer_UpdateModule.pl
```

※ コマンドの実行は、telnet から root 権限で行って下さい。コマンドを実行するとパッケージがインストールされます。

アップデートモジュールの適用は、必ず公開された順番で行って下さい。

(6) システムの再起動

すべてのアップデートモジュールを適用した後に、システムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先に再起動を行って下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。

フェイルオーバークラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行って下さい。

「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

コマンドラインからのアップデート適用(4/4)

- (7) 稼働系切替(フェイルオーバークラスタ構成時)
フェイルオーバークラスタ構成以外の場合は、(8)に進んで下さい。

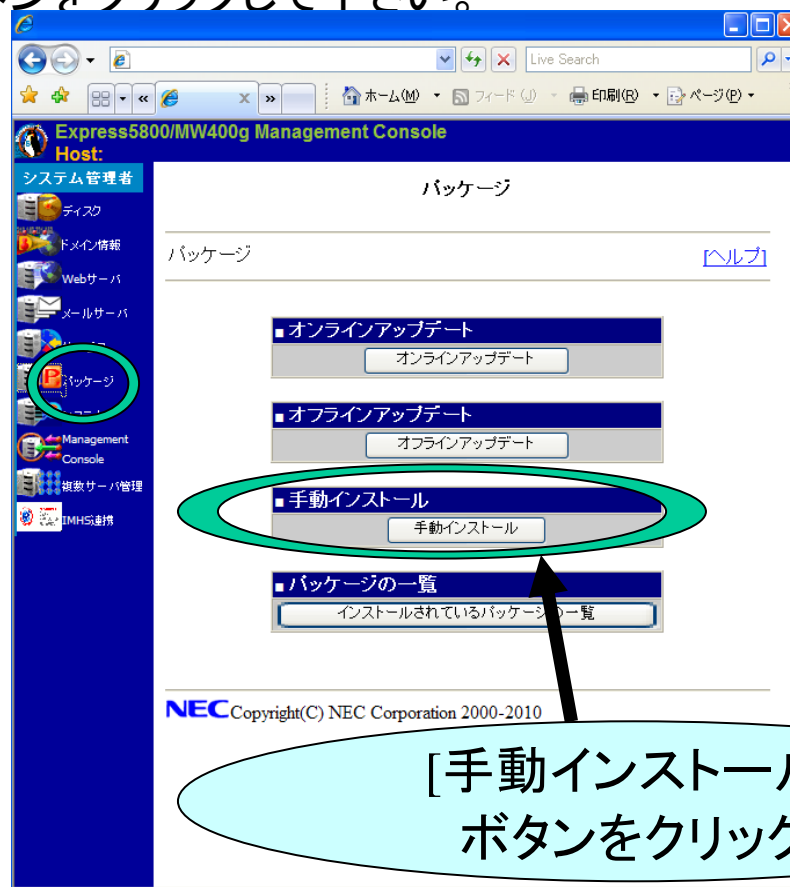
CLUSTERPRO Webマネージャにて稼働系の切り替えを行って下さい。
切替後の稼働系サーバにて、(1)～(6)の作業を行って下さい。
(1)～(6)を実施後、再度、稼働系の切り替えを行って下さい。

- (8) サービスの起動
Management Console の[サービス]画面からサービスを必要に応じて起動して下さい。

RPMパッケージの適用方法 (1/5)

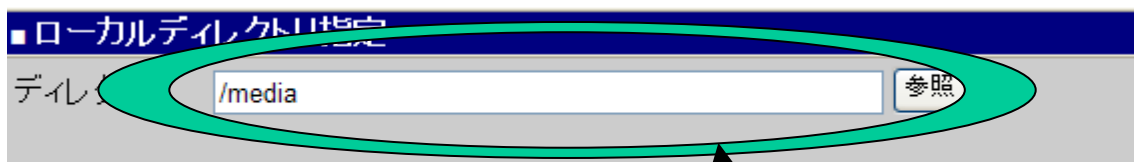
RPMパッケージの適用は、予め取得しておいたRPMパッケージを、Management Consoleより適用します。

- (1) Management Console でパッケージをクリックし、[手動インストール]の[手動インストール]ボタンをクリックして下さい。



RPMパッケージの適用方法 (2/5)

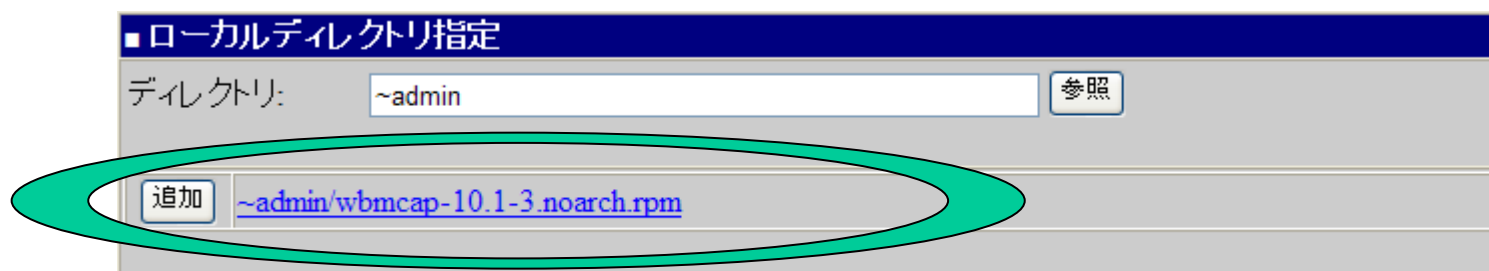
- (2) [■ローカルディレクトリ指定]欄の[ディレクトリ]に、RPMパッケージを保存しているディレクトリを指定し、[参照]ボタンをクリックして下さい。
アップデートモジュールは、アップデート公開サイトからダウンロードした
‘rpm’ 形式の状態で保存しておいて下さい。



アップデートモジュールを保存した
ディレクトリを指定し、[参照]ボタンをクリック

RPMパッケージの適用方法 (3/5)

- (3) 指定したディレクトリに含まれるアップデートモジュールの一覧が表示されます。アップデートを行うRPMパッケージの[追加]ボタンをクリックして下さい。

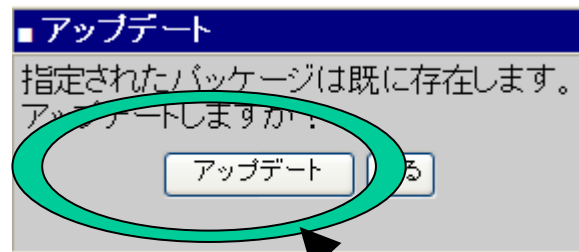


↑

アップデートを行うRPMパッケージの
[追加]ボタンをクリック

RPMパッケージの適用方法 (4/5)

- (4) アップデート確認画面が表示されます。[アップデート]ボタンをクリックし、アップデートを実行します。



[アップデート]ボタンをクリック

RPMパッケージの適用方法 (5/5)

- (5) すべてのRPMパッケージを適用した後に、システムを再起動して下さい。

ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先に再起動して下さい。
スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行ってください。

フェイルオーバクラスタ構成の場合は、必ずCLUSTERPRO Webマネージャから「クラスタシャットダウン」で再起動して下さい。「クラスタシャットダウン」の方については、CLUSTERPRO の「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

- (6) 稼働系切替(フェイルオーバクラスタ構成時)
フェイルオーバクラスタ構成以外の場合は、(7)に進んで下さい。

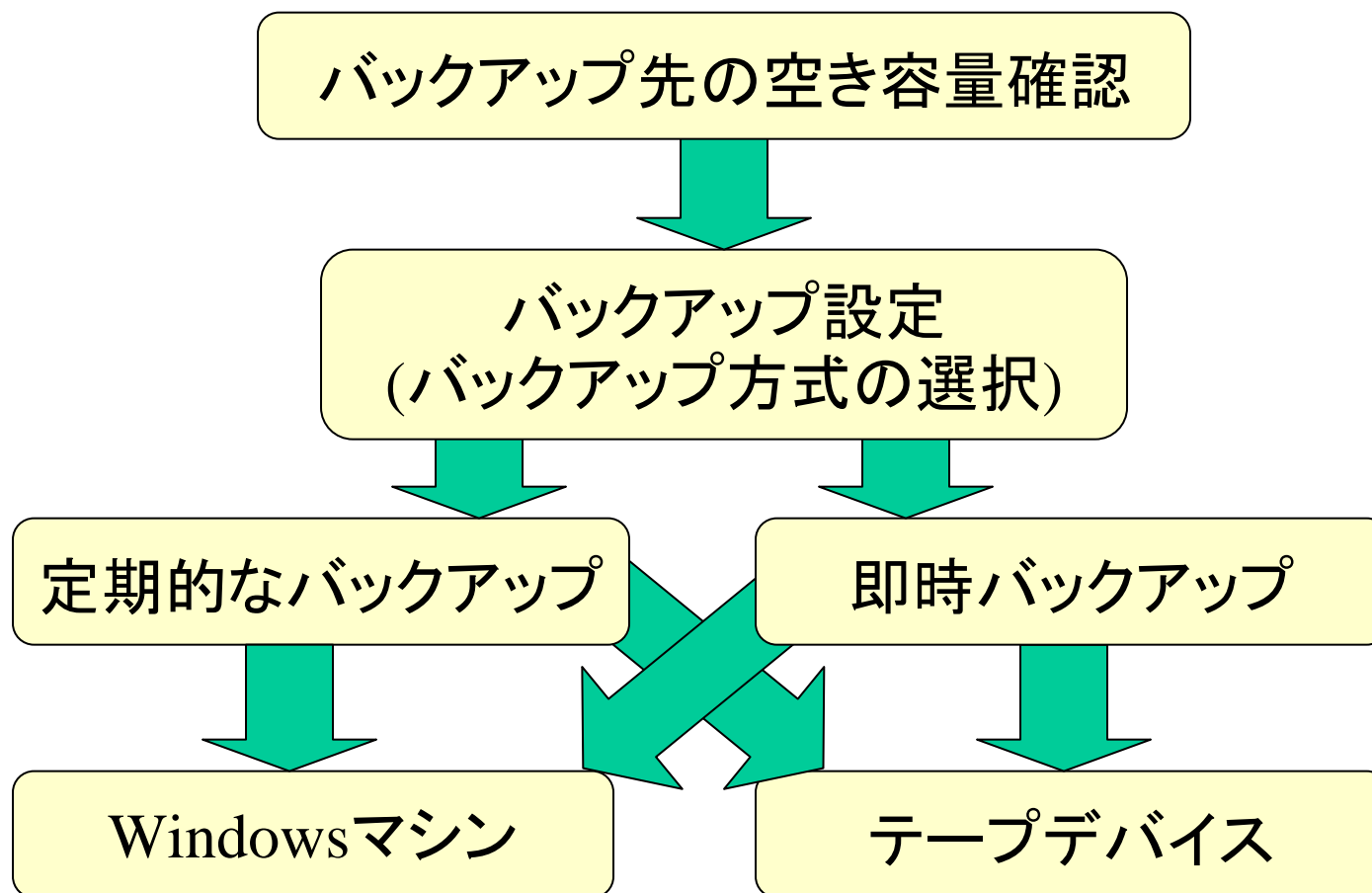
CLUSTERPRO Webマネージャにて稼働系の切り替えを行ってください。切替後の稼働系サーバにて、(1)～(6)の作業を行ってください。(1)～(6)を実施後、再度、稼働系の切り替えを行ってください。

- (7) サービスの起動
Management Console の[サービス]画面からサービスを必要に応じて起動して下さい。

参考資料

アップデートモジュールを適用する前に、バックアップを行って頂く必要があります。アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻すこととなった場合、システムの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、バックアップを行って下さい。また、バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でバックアップを行って下さい。バックアップについては、ユーザーズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

バックアップ手順



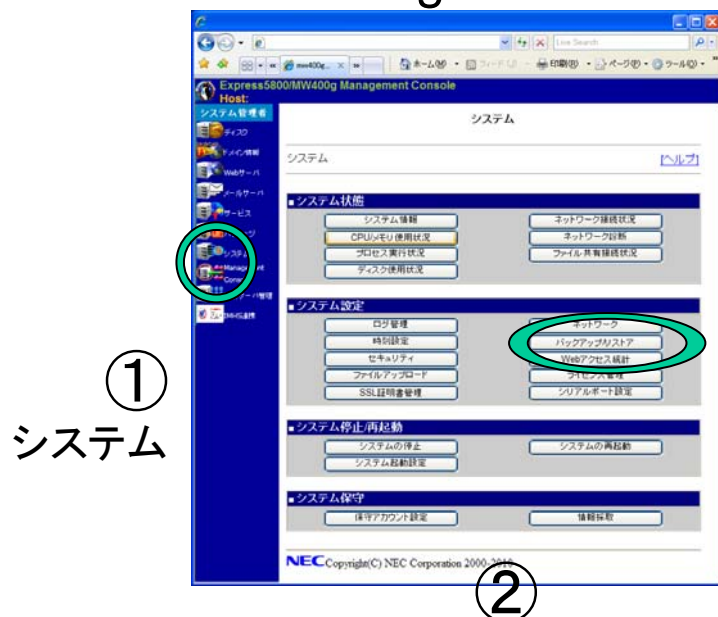
バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(1/2)

1. Windows マシンの共有フォルダの作成

例: ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

2. Management Consoleによる設定(1/2)

Management Consoleで以下の順にクリックして下さい。



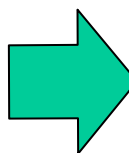
①
システム

②

バックアップ／リストア

バックアップリスト一覧				
操作	説明	世代数	タイミング	
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない	
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない	
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない	
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない	
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない	
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない	
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない	
バックアップ 編集 リストア	ESMPRO/SAのバックアップ	5	バックアップしない	
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない	

③
編集



バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(2/2)

2. Management Consoleによる設定(2/2)

以下の内容を入力して下さい。

■世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。バックアップファイルは5 世代分残す。

■Windowsマシンの設定

「Samba」をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。

例: ワークグループ名「workgroup」、マシン名「winpc」、共有名「share」、ユーザ名「user」、パスワード「*****」

■編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

対象ディレクトリ: /etc/home/var/named/var/spool/mqueue/opt/nec/mail/mail.conf/opt/nec/mail/httpd.conf
/usr/local/finl/finl/system/opt/nec/wbmc/ssh_host_key.pub/root/.ssh/var/lib/dap
/opt/nec/mail/eul/opt/nec/mail/mwbcc/opt/nec/dns/opt/nec/cluster

世代: 5

スケジュール: ☐ 毎日 ☐ 毎週 ☒ 日曜日 ☐ 毎月 日 ☒ バックアップしない

時刻: 0 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

☐ ローカルディスク ディレクトリ: /var/backup

☒ Samba

ワークグループ名: workgroup
(NTドメイン名)

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

パスワード: *****

☐ FTP

サーバ名:

ログイン名:

パスワード:

ディレクトリ: /

設定 実行

最後に[設定]ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Consoleの設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。

世代・スケジュールを
設定しない

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

対象ディレクトリ: /etc/home/var/named/var/spool/mqueue/opt/nec/mail/mail.conf/opt/nec/mail/httpd.conf
/usr/local/fnl/fnl/system/opt/nec/wbmc/ssh_host_key.pub/root/.ssh/var/lib/ldap
/opt/nec/mail/eul/opt/nec/mail/mwbcc/opt/nec/dns/opt/nec/cluster

世代: 5

スケジュール: ☐ 毎日 ☐ 毎週 ☐ 日曜日 ☐ 毎月 ☐ 日 ☒ バックアップしない

時刻: 0 時 0 分 (バックアップ)

バックアップ方式:

☐ ローカルディスク ディレクトリ: /var/backup

☒ Samba

ワークグループ名: (NTドメイン名) workgroup

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

パスワード:

☐ FTP

サーバ名:

ログイン名:

パスワード:

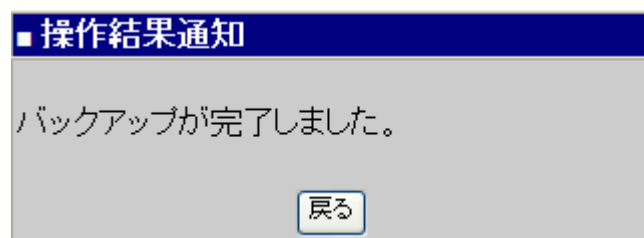
ディレクトリ:

設定 即実行

最後に「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。

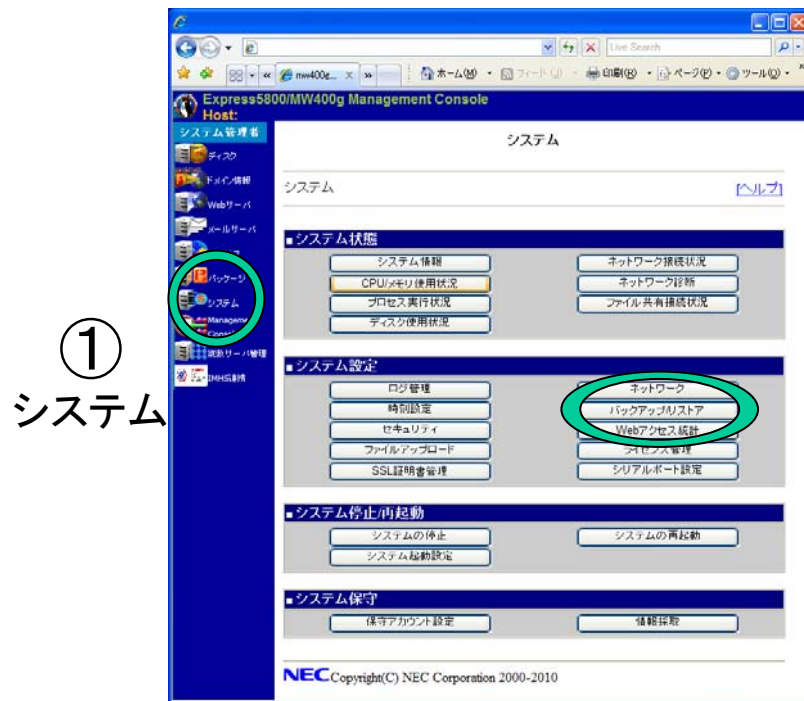


注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていないので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

バックアップ例3: テープデバイスへの定期バックアップ(1/2)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



②
バックアップ／リストア

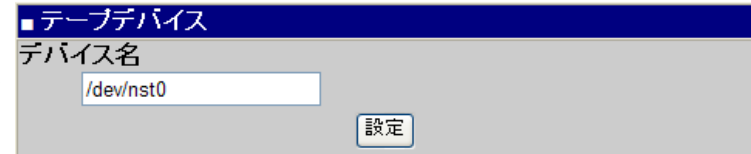
バックアップリスト一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
バックアップ リストア	ESMPRO/SAのバックアップ	5	バックアップしない
テープバックアップ			バックアップしない

③
テープバックアップ

バックアップ例3: テープデバイスへの定期バックアップ(2/2)

以下の内容を入力して下さい。

テープデバイス名を指定する



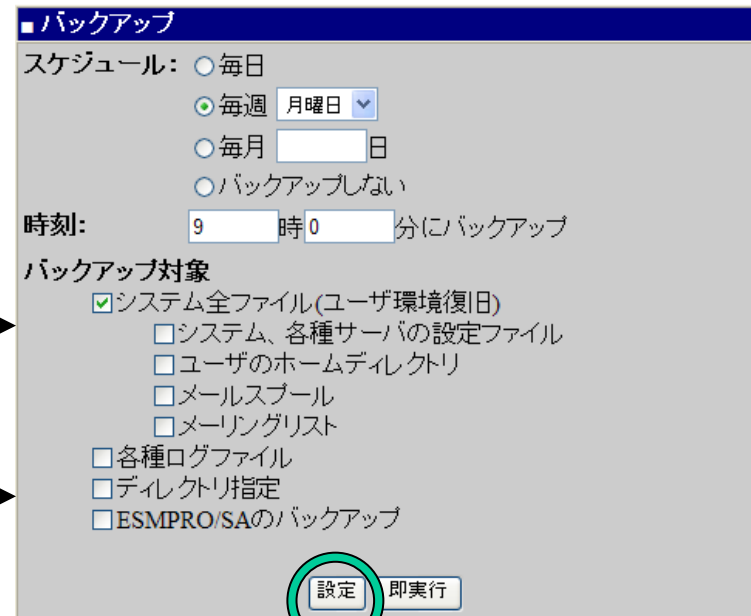
■テープデバイス
デバイス名
/dev/nst0
設定

■世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。

ここをチェックする

必要であればチェックする



■バックアップ
スケジュール: ☐ 毎日 ☒ 毎週 月曜日 ☐ 毎月 日 ☐ バックアップしない
時刻: 9 時 0 分にバックアップ
バックアップ対象
☒ システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
☐ システム、各種サーバの設定ファイル
☐ ユーザのホームディレクトリ
☐ メールスプール
☐ メーリングリスト
☐ 各種ログファイル
☐ ディレクトリ指定
☐ ESM/PRO/SAのバックアップ
設定 即実行

最後に「設定」ボタンをクリック

バックアップ例4: テープデバイスへの即時バックアップ(1/3)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、Management Consoleから以下の操作を行って下さい。

①
システム



②
バックアップ／リストア

■バックアップリスト一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
バックアップ リストア	ESMPRO/SAのバックアップ	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

③
テープバックアップ

バックアップ例4: テープデバイスへの即時バックアップ(2/3)

バックアップを実行します。

テープデバイス名を指定する

■テープデバイス
デバイス名
/dev/nst0
設定

このみチェックすればよい

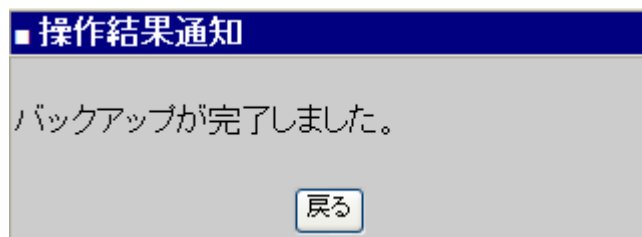
■バックアップ
スケジュール: ☐ 毎日 ☒ 毎週 月曜日 ☐ 毎月 日 ☐ バックアップしない
時刻: 9 時 0 分にバックアップ
バックアップ対象
☒ システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
☐ システム、各種サーバの設定ファイル
☐ ユーザのホームディレクトリ
☐ メールスプール
☐ メーリングリスト
☐ 各種ログファイル
☐ ディレクトリ指定
☐ ESMPRO/SAのバックアップ
設定 即実行

必要であればチェックする

「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例4: テープデバイスへの即時バックアップ(3/3)

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



バックアップの補足事項(1/2)

1. 「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていないので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。
2. 「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」のバックアップは、
 - ・システム、各種サーバの設定ファイル
 - ・ユーザのホームディレクトリ
 - ・メールスプール
 - ・メーリングリスト

の項目をバックアップすることと同じ意味になります。

両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。

ただし、ロードバランスクラスタ構成の場合、メールスプールとメーリングリストは含まれません。

バックアップの補足事項(2/2)

3. ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。
したがってESMPRO関連の設定については、システムの再インストール後、ユーザーズガイドに従い改めて行って下さい。
4. バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。